

十二月八日は、お釈迦さまがお悟りを開かれた日です。曹洞宗でも「成道会」の法要が営まれます。日本で最初に「成道会」を営んだのは、道元さまともいわれています。

「成道会」の成道とは、「成仏得道（じょうぶつとくどう）」の略で、“仏と成り悟りを得ること”という意味になります。「道」は“悟り”を指すのだそうです。

では、その悟られた内容とはどのようなものだったのでしょうか。

実は、明確にはなっていないのですが、お釈迦さまの生き方や教えから、それは「縁起の法」であることは間違いの無いことだと言えます。

「縁起」とは、別の言い方だと「因縁」であり「因果」です。それらは何かという、皆さん自身やその周りの物事が、生まれ来て、そして無くなっていくという、自然や行為の影響関係のことです。もっと簡単に言うと、時間によって伝わり変わりゆく全ては影響し合い、関係し合っている・・・全てですので、時間も入ります。

「縁起を断つ」と言いますが、時間は切り取れません。例えば、滝の1メートル下から五メートルの部分だけを切り取って除けと言われても、切り取った上下だけを残したままにはできません。原因を絶つしかないのです。水が無くなれば滝ができないのと同じです。しかし、水はまた貯まるでしょう。それをどうするか。また、滝が無くなったことによる影響も考えなければなりません。それが「縁起」です。全ては影響し合っているということを見捨てるのは愚かしいと、判るでしょう。

この「縁起」を「生命」に喩えると、私たちが生きているのは、ご先祖さまが有ったことです。ご先祖さまが一人でも欠けていると、私たちは生まれません。これは「生命」という繋がり「縁起」です。

さらに、私たちの生きている環境の「縁起」もあります。生まれたばかりの子供は誰かに育てて貰わなければ、間違いなく死んでしまいます。私たちも、空気が無ければ、水が無ければ、食べ物が無ければ死んでしまいます。それらを作っているのは誰でしょうか？ それらを守っているのは誰でしょうか？ それらを運んでいるのは誰でしょうか？ 全ては縁に因って、果てしなく繋がっているのです。

お釈迦さまが悟られた時の・・・

「私と、生きとし生きるものすべてと同時に成^{じょうどう}道す。」

という言葉がある通りに「縁起」を証明し、その「縁起」を否定されなかったのが、お釈迦さまの生き方、つまり「仏^{ぶつどう}道」なのです。

— 終 —